

# 国産飼料に立脚したゆとりの有機牛乳生産

(北海道：有限会社 石川ファーム)

## 取組項目

飼養管理	良質堆肥の生産	堆肥の広域流通	国産飼料生産・利用	有機畜産	その他(※)
○			○	○	JAS、JGAP

(※) 畜産GAP、農場HACCP、労働環境の改善、消費者理解の醸成 等該当するものを記入

### <取組主体について>

- ・所在地：北海道網走郡津別町
- ・代表者：石川 賢一
- ・飼養頭数：115頭（内経産牛60頭）
- ・飼料作物作付面積：65ha
- ・労働者：家族経営（本人・妻）



放牧風景

### <取組について>

- 概要
  - ・平成12年に輸入飼料や化学肥料・農薬に頼らず、有機自給飼料による牛乳生産を目指し、町内酪農家19戸とともに「津別町有機酪農研究会」（以下「研究会」という。）を設立。
  - ・平成17年完全有機に転換し、翌年日本初の有機牛乳のJAS認証を取得し、製品販売を開始。
  - ・更なる衛生管理のため、令和2年JGAP団体認証取得を行い研究会員一丸となり品質管理の徹底した生乳生産に取り組んでいる。
  - ・有機飼料を自ら栽培するとともに、有機畑作農家が輪作で栽培した飼料用とうもろこし（イアコーン・子実トウモロコシ）を利用するなど、高品質な国産有機飼料を確保して、北海道の平均58%に比べ78%と高い飼料自給率を達成。
  - ・栽培、飼養管理において、GPSと自動操舵を組み合わせた真空播種機・機械除草や「キャリロボ」など新技術の積極的な活用や、TMRセンター設立・利用や放牧により労働時間を削減。なお、労働時間はおよそ5時間/日/人と極めて短い。
  - ・有機牛乳の生産・販売には、研究会だけでなく農協、TMRセンター、畑作農家、乳業メーカー、普及センターなど多くの関係者が関わっている。
  - ・酪農教育ファームの認証を取得し学校や教育現場等と連携し体験・食育活動を通じた、消費者の理解醸成にも取り組んでいる。
- 今後の課題
  - ・高栄養の自給飼料生産拡大・国産有機飼料確保による、国内有機飼料自給率100%を目指す。



イアコーンサイレージの収穫風景



日本初のJAS認証を取得した有機牛乳